館報 たつおか

発行所
飯田市竜丘公民館
編集人
竜丘公民館編集部
印刷所
龍共印刷株式会社
飯田市伝馬町1 電961

緑ヶ丘にプールを

十日に建設委員会が発足

9割の地元負担が焦点

大成功といわれたオリンピックの中にあつて、日本水泳陣の不振は、各方面で論議を呼んだ。

特にアメリカの十代グループの台頭が目覚ましく、日本の十代に対する水泳指導の欠陥が指摘されている。

それとの関連は別として緑ケ丘中学校にプールを建設する計画が最近具体的になつてきた。

学校長とPTA会長名で地区内各家庭に配布されたパンフレットによると二十五米プールで七コース十五米、予算の概要は別表の通りとなつている。

それに基いて十一月、竜丘、松尾、下久堅三地区の自治協議会が各家庭に説明と協力を要請したがその結果多少の曲折を経て十一月三十日各地区共賛成の意志表示がまとまり、十二月十日第一回の、建設委員会が開かれる運びになつた。

建設委員会の構成は、千区選出教育委員、市会議員、自治会正副会長、財産区正副会長、市役所支所長、学校長及教頭、PTA正副会長等になる模様である。

いうまでもなく建設費用の大半を地区割負担という名目の、税外負担に行なわれるだけに多くの問題を含んでいることであるが、各地区の状況も自治会としては一応賛成の意向をとりまとめたとはしているが下久堅の一部に相当な反対があり、竜丘の場合、長野原、時又の一部に反対がありその他の区は止むを得ないというかたちで賛成になつている。

今後それ等の反対及至は納得していない方面、意見に対しては、大部分が賛成という基礎に立つて学校始め関係者が説得に当ることになつている。

そこでその問題点について簡単な解説をしてみよう。

まず市、学校、自治会等関係者の一致した見解は雑把にいつて、一、プールは、必要不可欠のものであること、二、設置する責任は市にあること、三、市に財源がないことの三点であり今更改めて書く必要がない程常識的なことである。

一、学校施設としてプールが必要であることは論をまたないが、飯田市のプール設置状況をみると本校二十六校中、緑ケ丘、川路、三穂、東中、西中、追手町、大平が未設置となつている。

従つて緑ケ丘中学の場合他校の状況からいえばむしろ遅い感があるとはいえ、それが若干でもムードに左右されていないか。或は現在地区の住民に負担をかけるものとしていろろ不備な点の多い学校施設の中で最も緊急度の高いものであるかどうかということ、又授業時間中は無理としても昔の様に自然の河川（特に大竜川）の利用は禁止することが将来の体育及人間形成の途として正しいかどうか検討する余地なしとはいえないのではないか。

二、水泳が中学校の必修課目になつている以上その設備を市が設置しなければならないことも又当然のことであるが、現況で市が設置できないことは止むを得ないとしても将来何年またばできるという見通しも樹つていないことに問題点があろう。

そこで今回殆んどが寄付金で建設されたとしてもその施設は市のものになる訳であるが、

○地元住民がその責任に於て市域は県から一部の「補助金」を貰つて建設し完成と同時に市に寄付するものか。

○市の予算が足りない分（仮にそれが大部分であつても）を地元住民の希望と熱意で寄付を集めそれを基として市の責任に於て建設するものか考えてみる必要があろう

三、予算については昭和三十九年度の市教育予算は別表の通りとなつている。その予算には、事務職員、公住、給職婦等の市職員一四六名の給与が含まれている。

先生の給与は、県から支給されている。従つて教育予算総額に比べれば僅かといえるが、昨年伊賀良に七〇万円、本年浜井場に五十万円（予定）の補助金を出している。

これは昨年市長が言明した通り建設費の約一割であり今後も当分その状況が続くものと予測される。

プールが必要であること、設置義務者にその能力がないことによつて、見方によれば一番弱い発言力の少ない住民が、然も児童の教育という絶対的なものに対して、税外負担（税金ではないがそれと似た性格のもの）というかたちでつくらなければならないという現実に対して私達はよく考えてみる必要があると思う。

市が悪いのではない、もちろん学校やPTAにはその責任はない自治協議会（その制度の当否は別として）の主たる役割も負担金を集める世話をすることゝいうことになれば、一体もとも我々の税金が安すぎるのか、或はもつと他に責任を負わなければならない方面があるのかということになりそうであるが、ともかく今度の場合それを全部背負い、みぬぐいするのが住民ということである。

一概に決めつけることには問題があろうとは思うが只市の姿勢に市では予算がなくてできません。但し地元が作れば一割補助しますから作りなさいというだけの消極さが感じられることは否めない。

尚教育施設という最も名分の立ち易いもの丈に比較的容易であろうとは思うが、今後に残された具体的問題として、

一、住民への説得

二、平均一六〇円弱になる負担を各戸にどう割り付けるか

三、その割りあて額を出せない域は出さない部分、個人が出た場合どう処理するのか、又事情によつて分割払い等の手段がとれるのかどうか。

四、関係者が努力していることゝは思うが、予算総額の減少及補助金の増額等の措置をこれ以上とる途がないかどうか。

以上の四点が主な問題と思う。何れにしても住民の納得できるかたちでプール建設が進められることを切望すると共に我々も市政の在り方、竜丘村、村立学校というものがなくなつた現在、学校と住民とのつながり等について考えてみるよい機会でもあろうと思う

予算の概要

1. プール建設総工費 約750万
   本体工事 浄化装置 便所
   更衣室等の付属建物
   土地 水源及び水路
2. 収入（予想される額） 約200万
   県補助金 約30万
   市〃 約70万
   PTA労力奉仕 約100万
   PTA会員一戸2工労力奉仕
3. 差引不足額 約550万
4. 地区割負担金（550万を地区別世帯数によつて負担金額を割出してみると一応下記のような額になる）

	世帯数 7/1現在 戸	負担率 %	負担金額 円
松尾	1.630	46.6	2.561.000
竜丘	953	27.2	1.498.000
下久堅	918	26.2	1.441.000
計	3.501	100	5.550.000

稲作を省りみて

今年は春以来の好天候に恵まれ昨年の裏作の物を始め、春先から夏場にかけて農作物が全般に良い生育をみせ順調な足どりをみるに至つた。一面稲作状況を省りみるに、苗代の設置から田植にかけて従来と変つた所謂、短期に成長した苗に対する早植えが実施され、労力配分からも春の農作業がスムーズになされた。その後七月中旬になり梅雨前線の影響から、稲の生育が一時とだえたが、下旬からの天候の回復に依り、豊作が予想される様になつた。一方、毎年稲作中期において被害の発生を見る二化メイ虫は、部落防除班の共同防除体制強化の下に、良く消毒の徹底を期され二化メイ虫の被害を完全に防ぎ稲の作柄を一層に高めた。以来八月中旬より稲作作況に一〇四%の指数に豊作ブームを伝えられ、更に、今年度米価値上げ尚、出穂期に至つてゴヤ落枯病の影響も自治会としては一応賛成の意向をとりまとめたとはしているが下久堅の一部に相当な反対があり、竜丘の場合、長野原、時又の一部に反対がありその他の区は止むを得ないというかたちで賛成になつている。

今年は春以来の好天候に恵まれ昨年の裏作の物を始め、春先から夏場にかけて農作物が全般に良い生育をみせ順調な足どりをみるに至つた。一面稲作状況を省りみるに、苗代の設置から田植にかけて従来と変つた所謂、短期に成長した苗に対する早植えが実施され、労力配分からも春の農作業がスムーズになされた。その後七月中旬になり梅雨前線の影響から、稲の生育が一時とだえたが、下旬からの天候の回復に依り、豊作が予想される様になつた。一方、毎年稲作中期において被害の発生を見る二化メイ虫は、部落防除班の共同防除体制強化の下に、良く消毒を期され二化メイ虫の被害系により当地区の中でも特に早植された地帯に、暖冬から来る、ウンカ、ツマグロ等の発生、媒介により稲の縞葉枯病の大被害をみ、

一、種子更新と種子消毒の徹底、

二、諸病害虫に対する早期共同防除（特に苗代期間、早植地帯）

三、地力維持増進のため推病肥の増施

四、施肥基準に基づく施肥の励行等を強く打ち樹て稲作の安定を期したい。

早植えが普及され（品種を問わず）後期生育に対する肥料切れが見られた。

来年度の稲作方針

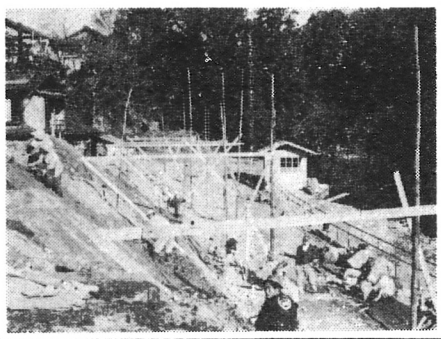
始まった時又の築堤工事

かねてから、計画されていた時又の堤防工事が十一月十五日より着工されています。

この工事は昭和三十六年六月の大水害に耐えられる様に設計されており、大堤防の始まりとして、注目されている。工事個所は時又大竜橋より上流へ百六十メートル下流へ七十メートル、計二百三十メートルで、上流は完全なものとなるが、下流は用地交渉の関係で新川巻込までの施工はされないことになつているが、次の機会を待ちたいものである。

なお、設計大要は築堤及び護岸工事で盛土は、およそ四千立方メートルで、下流の切込砂利を運搬し、現在の石張の上へ盛土し築堤するもので、高さ四メートル、護岸前面は厚さ三十五センチ、こう配は一割から一割五分のコンクリート張で、築堤裏面は土羽（ロンタイ）で仕上げるもので、竣功すれば立派になるものと期待されている。

工事費は六百四十万円で、地元の業者が請負い、現在、盛土が行なわれている。工事主体は建設省。



大竜川上流工事事務所飯田出張所の設計監督により、工期は昭和四十年三月三十日となつている。早期竣工が地元民から期待されている。

消防団幹部決る

分団長に木下幹夫氏

▽団長 木下幹夫 ▽分団付 路塚平仁司（予防） 桐林原牧内清志 ▽庶務部長 下平広（水利） ▽機関班長 駄利朗 ▽警護部長 金子秋雄 科上下平道啓駄科下平明人△消防部長 原佳朗 ▽庶務 長野原小林章夫 時又沖田岩班長 河井 雄上 辰雄 ▽ラッパ班長 川路敦 伊原万介 内利郎 ▽救護班長 宮沢重雄 ▽責 塩沢邦一 桐林下下平若雄任班長 駄科下平宣嗣（予防） ▽誘導班長 伊藤隆亘 ▽水利班長 下平健一郎 ▽長野原小林章夫（可搬） 時又下平政人（誘導） 上川

○—●—○—●

成人式

全市統合ときまる

簡素な服装で参加を

竜丘の該当者申し合せ

1月15日

来年の成人式については竜峡三カ村の合併もあり、市では春以来その方法について研究を続けてきたが、成人該当者、母親、公民館運営審議会、公民館役員などの意見を総合したところ、結局竜丘の成人該当者の意見通り一月十五日の成人の日に、全市統合で行うことにきまつた。

来年の成人式該当者は昭和十九年四月二日から昭和二十年四月一日迄に生れた方たちで、話し合いの中心はやはり式の意義と服装の問題であつた。それにはいろいろな意見があつたが、該当者の方たちの意見と希望をまとめてみると時期は成人の日の一月十五日の方が夏の八月よりも出席しやすいし式は形式的でも自分が成人したという意識が高まることが大切であるから、知つている人たちだけの小さな集りでなく、全市の成人者が一堂に会することがよいという意見が圧倒的だつた。服装については特に女子の方々が自主的に洋服で参加するよう申し合わされ、簡素な服装で堂々と出席しようというのもしい意見が強かつた。

市ではこうした各地区の意見を総合したところ竜丘の該当者の意見通り、一月十五日に全市統合で会場は飯田東中学校と決つた。該当者の皆さん、大人への輝しい門出を、みんなの祝福の中で力強く第一歩を歩み出されますよう成人式には都合さしくつて全員元気で出席されることを期待しています

ごあいさつ

山下千代子

この度、市の人事異動によりまして去る十月七日から竜丘支局にお世話になつております山下です

下久堅の出身でありますが有線に入つてまだ年月も浅く未熟者であり皆様のお名前や部落を全くわからず通話がスムーズにできるだろうか、皆さんに迷惑をかけないだろうかと不安で不安でたまりませんでした。

でも竜丘の皆様はほとんどが番号で申し込んで下さいますことが私にとつて大変嬉しく思いました

お世話になりまして一月余りになりますが一日も一時間も早く皆様と仲良しになれますように、又皆様に喜んで戴ける有線になれますように努力致す覚悟でおりますのでどうぞよろしく御指導下さいます様お願い申し上げます。

駐在日記

一、おやじか？ 火事か？

寒さが増すにつれ、一番心配なものは暖かいコタツや赤々と燃えさかるストーブ等です。だがこれらのものが一寸の油断や取扱いの誤りから私たちの命取りの凶器と早がわりをします。火災にはくれぐれも気を付け片時も火の用心を忘れないようにいたしましよう

二、地こくか？ 天こくか？

元気で帰るはずの、我が父、我が夫が悲しい姿で他人の手をかり無言の内にかえるといつた例は多々あります。最近交通事故の大半は飲酒運転によるものです。やさしい妻の一言の注意、自分のキツパリとしたとわる強い意志これらが交通事故から、あなたを守り、楽しい家庭生活を守ります。

三、下と書いてあるは列車の時刻表だけか？

公共料金も上り？ 米も上り、野菜までが上り、下るものとして更になく、あつたとしても寒さで鼻水が下る位のものです。腹がひもじい。寒くはなる。その次は他人の物を取るという段階です。これからは犯罪が多くなる時期です夫が悲しい姿で他人の手をかり無犯が敢行されます。お互油断は禁物です。犯罪のない明るい社会作りに協力しましよう。

（酒井）

ヤブ蚊

▼師走の風が身にしみる様になつてきた。昭和三十九年度も、もうお終りに近づいてきた。誰もが今年こそはと、年の始めに念するところであるが一年を経過してみると心残りのことが多くある。農村生活の静閑の中に、青年達が満足していられただろうか。今年になつて都会と農村の格差は益々増大して、新卒の農業後継者は減り、離農して行く青年も多くなつてきた。さびれて行く農村、取り残された農業を思うと悲観的にならざる得んのが今の状態である。

▼米はえらいとれなんだ。痛は去年に比べて、貫当り千円も安かつた。

▼オヤジのフトコロ具合も寒くてセガレに小遣いもそうは出せん。冬仕事も、土建会社がつぶれる様で余りない。小遣い稼も狭き門。何ともはや、せちがらい世の中である。

▼文化生活とは大いに金をつかつて生活をすることであるとか。企の入り口ばかり狭められ、出口の方は益々大きくなつていつてしまいはしないか。財布のひもを締め直すのも又この暮れではあるまいか。

▼青年のエネルギーの発散。オリンピック選手のように、ハネ回ることでもあるまい。特に農村青年の場合、あきらめにも似た低迷の中で、深刻な悩みをかかえてすでに羽ばたくすべを忘れはすまいか健全な場所、すなわち農地と豊かな資金とを与えてくれたならば、全力を傾けるに足る条件を与られれば、決定打ともいうべき、成果を上げることが出来よう。

▼銭を沢山とつて豊かな文化生活が出来るユートピア竜丘の初夢でもみることにして、オリンピックはあつたけど、我々には余りよくなかつた昭和三十九年とおさらばすることにしよう。

▼ただ、来年ある筈の市会議員選挙と、参議員選挙には、個々の真意にまかせてよりよき議員を送つて夫々市政、国政により明るいものを打ち出してもらいたいものだ。

市教育予算

小学校費	5,177,0万円
中学校費	7,970,3
高校費	128,6
社会教育費	2,121,0
保健体育費	2,482,4
（うち学校給食費	2,300,0）
教育総務費	3,120,7
合計	21,000,0

青年の主張

青年運動打開のため——めのとぼけた提案——

青年運動は停滞しているといわれている。今まで農村青年を中心として栄えてきたものが、昨今の農業不況で青年に嫌われる農業となってしまっては、農業に残る青年の量的低下は、おのずと停滞と見られる一因となっているのは仕方のないことである。

下伊那青年運動史に見る緩な五十年の伝統もこの過渡期に直面して座折してきているのではあるまいか。時代の変遷にまかせて、ひからびたものにしてしまっても何か惜しいような気がするものである。

お祭り青年あり、文学青年あり、政治青年あり、音楽青年あり、それぞれのグループがバライテーに富んだ活動を残して、青春を旺歌したよき時代の青年の職別構成はどうであったろうか。殆んど農村旺盛時代の農家のせがれが中心だったことはまちがいなかろう。

青年団員の量的把握の問題は今でも百姓青年中心主義の残つている点ではなかろうか。確かに今の団員の中には百姓青年は数える程しかないことは明らかだ。（全団員でも数える程しかいないのだから）

かつての時代の百姓中心主義の伝統が何らかの形で残って構成上でわざわいしていることはいなめない。絶体量の少ない中では誰もが入れる魅力を具備していることが一人でも多く入れることではないだろうか。青年層の職業別の人口比例した構成をなすのが理想だろう。職場別のサークルやグループに打ち込む様に、地域の中の青年達も交つて、広い人間的視野を養成するのがいいことだと思うのである。

そしてその中で文学だとか、音楽だとか、政治だとか、哲学だとか経済だとかを論じ合えばよいのではなかろうか。（更にもつと実用的なことをやつてもよい）

農村の若い農業従事者達のもつている職業的な劣等感や、孤独感を職業的なサークルの段階から実に広い層の集う場へ出してやることは、いくらかでも彼等のそれらの観念を柔げることになろう。

広域な青年達の総会的な集いの場を設けより健全な青少年を育成する場としたらどんなものだろうか。

我々農村青年は、もう既に、人員の少ない、狭い範囲での乏しい青年運動にはがゆさを感じている。過渡期からの脱皮のための提案をして、青年センター（仮唱）の設置を希うものである。公民館といえどもヤカタなどないように、何も新しいヤカタを設けて活動するというものではなくて、青年の交際の場としての一つの組織の設置をいうのである。

その場で、広域の交際や、学習、さまざまのバライティーに富んだ活動をしてみたいものである。

広い視野で活動展開

新年度の公民館 企画委員会を新設する

○…公民館はいま、われわれ住民の生活向上のため社会的基礎整備を柱に、非常に地味な…●
●…活動が毎日続けられ、着々と社会教育本来の目的に向つて学習の組織づくりが行なわ…○
○…れ実践がくりかえされている。しかし、その成果がすぐに形となつてはつきり表われ…●
●…ない性質のものだけに関係者の苦労とたゆまぬ努力は並大ていのものではない。こう…○
○…いう活動の中で去る十二月七日、来年度公民館組織研究最終役員会がひらかれ、今年…●
●…一年の活動をふりかえり公民館の本質的な問題といま進んでいるその方向を確め合つ…○
○…た中で、それにふさわしい新年度の活動組織が生みだされたわけである。活動の方針…●
●…等は一貫性と継続性が大切であるので、新年度へ引き継がれるが、組織は一層の発展…○
○…を期して改革されたので、以下その主なものをひろつてみることにしよう。…●

まずそれを考えるにあたつてはわれわれをとりまく周囲の情勢がどんなものであるかをとらえておかなくてはなるまい。

いまわが国は政治的にも経済的にも大きくゆれ動いているが中でも農村は経済成長のあおりをくつて、われわれの生活に及ぼす影響は深刻である。戦前は専業農家が七三・七%、兼業農家は二六・三%であつたものが、現在では全くぎやくで、若干の投資力のある農民が自立できる程度でそうでないものは兼業農家になるという。いわゆる農民層の分解で離農と第二種兼業農家が著しい増加の傾向を示している。こうした事実をみても主婦農業、日曜農家出稼ぎ三チャン農業、共稼ぎ等々労働力を老人と女性に大きく切りかえざるを得なくなつたこの社会は、近い将来に大きな問題を投げださずにはおかないことは明らかであり、さらに物価や賃金の問題をはじめとして生活へのあらしは一層強められつつあるのである。

こうしたことはただ単に農業をやつているとかいないとかにかかわらず、われわれの生活とかかわり合いながら、いろいろなことが一緒になつて激しい変動を続けているのである。

こうした現実のなかで公民館は誰のために何をやつてきたか、われわれの学習も一般行事の方法や内容がはたしてふさわしいものであつたかどうか、又これからはどんな組織で何をやつて行けばよいか検討されたが、来年の事業については新年度になつて行われるものであるので省略し組織改革による新編成をみると次のようである

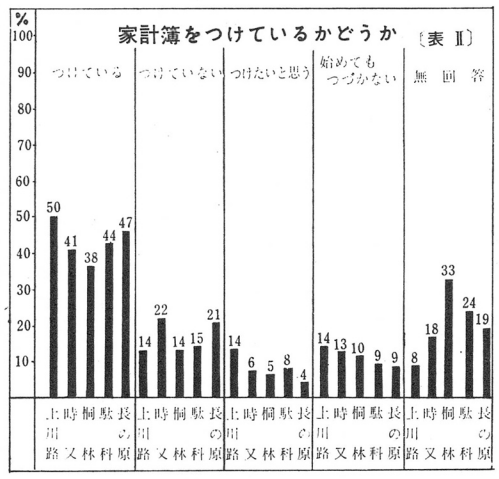
それによると従来の組織を大巾に改め、二委員会、二部制となる二委員会とは　①企画委員会（新設）と②編集委員会である。編集委員会制は従前通りであるが、公民館の活動を全体的な立場から企画実践するというのが企画委員会である。

一方、二部制というのは専門部で従来の体育、視聴覚の専門的性格を有する事業部で部員構成も従来通りである。新設の企画委員会の構成は専門部の部長、分館長、分館主事、青年会、婦人会、一般適格者、本館の館長、主事の計二十名によつて構成されるもので、役員組織はいずれも十二月中に完了し、来年一月からこの新しい組織で出発することになつている。

〔表1〕

調査年度	専業率	第1種率	第2種率	戸数
39.1	24.3%	41.6%	34.1%	575戸
(37.12	25.7	33.4	40.9	588万戸)
35	50.8	30.9	18.3	551戸
(35.12	30.9	31.5	37.6	598万戸)

〔表Ⅱ〕



農村の生活しらべ

家計簿を五〇%がつける

記帳は主婦の九〇%

最近、全国的な傾向として農家の兼業化がいちじるしいことは、御承知の通りであるが、生活様式も大きく変化している。

そこで、その状況をつかむために十一月初旬〝生活のしらべ〟を飯田農業改良普及所竜丘地区全域にわたつて行なつた。

調査の対象は七三五戸、そのうち五〇七戸、七〇%弱が回答を寄せている。

竜丘農協調べによる農家戸数は三五年一月（三五年）専業農家一四〇戸（一八〇戸）第一種兼業農業を主体にしているもの二三五戸（一七〇戸）第二種兼業—兼業収入の方が多いもの一九六戸（一〇一戸）となつている。

これを農林省による全国平均と比べると別表一の通りで、三五年当時全国平均より多かつた専業農家が急速に減少して、調査年度の違いを勘定すると現在は殆んど同じになつていることが推察される〝生活のしらべ〟は、家族構成、経営内容、台所の状況、飲料水等一八項目にわたつているが、生活の合理化とその熟意を表すバロメーターともいえる家計簿の普及状況は別表二の通りである。

現在つけているものは約五〇%であるが、つけたい或は始めてもつづかない層を含めると六〇～七〇%になり今後の普及が望まれる尚家計簿をつけている人は、主婦が七〇～九〇%となつている。

その他太陽熱タンクの普及は、最低駄料の一九%から長野原の四四%で、最近つけたいというものが、一〇～二〇%を示している。

◆調査にあたって

飯田農業改良普及所　仲田千鶴・矢沢敏美

竜丘のみなさま、この度、竜丘地区の生活の様子を知りたいと思いまして、お忙しい時にアンケートをお願いいたしましたが、みなさまの御協力によりまして、別記のようにこちらへもどつてまいりました。このしらべによりまして生活の事もつと考えていかなければならないと思うことがたくさん出てまいりましたが、その一部をみなさまに知つていただき、自分達の生活をみつめてみたいと思います。

世の中も変りまして金のいる世の中になりました。毎日のくらしも大変な事だと思います。金を得るために農家も兼業が多くなり女の人達も外に出て働くようになりました。その中にも色々と考えなければならないことがありますがいつたい私の家ではどの位金がいるのか、どの位収入があるのかわかつている方がどの程度あるかとみましたところ、家計簿を記帳している方が別記のような割合でした。やはり自分の家の収入と消費とみくらべて私達の生活の設計をしてまいりたいと思います。

書き残すことは努力のいる尊いことだと思います。忙しい生活を続けておりますと、せつなせつなで暮しているだけで過ぎた事など忘れてしまいます。記帳を始めても続かないという人もたくさんありますが、グループなどを作つてお互いに励まし合い記帳し、話し合によつて無駄をはぶき自分達の生活の上にうるおいのあるようにしてまいりたいと思います。グループ活動によつて色々とよい事がうまれてくると思います。

次に、手間を省き、熱源を節約するために太陽熱タンクはどの位あるかとみましたら、長野原が四四%もありました。忙しければ忙がしい程、風呂を炊き、体の疲れもなくしたいと思いますし、風呂を炊く手間がはぶけたら夏中でもどんなに楽でしよう。冬中にかんこうして太陽熱タンクを作りましよう。

生活の中に設計をたてて来年は何を作ろうかということも家計簿の記帳などからも出てくると思います。

家族ぐるみの読書を

竜丘家庭文庫生る

この家庭文庫というのは、竜丘の公民館、図書館、母親文庫が一体となつて地区に読書の気分をもり上げ広めるために全家庭を対象に館外活動を行うもので、とりあえずいまの母親文庫の組織をもとに、県立図書館の本と竜丘図書館の本を合わせてまわし、みなさま方にご家庭にいながら本を読んでいただこうという仕組で、去る十一月から発足したわけである。

これは母親にかぎらず「家族ぐるみで本をよむ」ということが大きな特徴です。本の購入や選定もグループの希望する本ができるだけ届くようにして一人でも多くの人に読んでもらおうというわけである。ですからどなたでも「本を読んでみよう」という方なら四人で一グループを作つて申し出れば読めるようになるわけである。

配本は簡単、グループに特典

四人のグループの誰か一人が決められた日に部落の配本所へ交換に行くだけでよいのです。配本はかんたんでしかもグループに入つていると、自分だけでは出来ないいろいろな勉強やそれぞれの希望がこの家庭文庫を通して実現されていきます。ですから大いに利用しましたみんなで育てていかなくてはならない大事な組織と云えよう

現在加入しているグループ数は一三七グループで五四八名、読書をされる方々は家族全員ですから人数では多くなるわけです。いま読めないといつている人たちも、めんどうがらずに、進んでこの組織に入り、家庭環境の健全なる発達にお互に努力しましよう。

テレビをみるひまはあつても、本を読むひまがないという人がありますが、本は好きな人や、ひまのある人だけが読むものではありません。世の中が変り、生活が忙しくなつてくればそれだけに読書はますます大切になつてくるのです。そこで何とか地区のみんなが読めるようになることはできないだろうか、と生まれたのが「竜丘家庭文庫」の組織です。

編集後記

今年の編集も今号でおしまい。たつた三回発行したつきり、それでも当初の計画通りに発行できたわけである。回数は少なくても部員一同精一杯やつてきた。

どこもかしこもせちがらい世の中、この中でどうにか末熟な館報を地区のみなさまにお届け出きたのは一重に編集子を始め、地区民の厚い御支援によるものと深く感謝致します。

ここで長い事、編集にたずさわつたとうの立つた古顔が三名退部して、来年は新機巻頭して、新らしい陣容でハツスルして貰います

御芳志

沖田藤六様（大分県直入郡長湯町）から館報編集へ御芳志をいただきました。厚く御礼申し上げます。

酒—洋酒の御用は
サントリー
ホームバーセット
予約承り中　18,000円
（月賦半年）
吉　伊原酒店
TEL 47
有線 39～8

忘年会・新年会
お申し込みをお早く
寒い時には
寄せなべで一パイ
時又　油屋
TEL 32
有線 40～8

随想リレー

96回　昔—今—相—世

富士　五輪史を飾る世紀の祭典東京オリンピックも、深い

木下　駄科

年期は短くなつた」というような記事が出ていた。その内容を要約すると、東京で四十六カ国の代表が、国際スポーツ科学会議をひらいて、医学や心理学の各方面から現代スポーツが当面するさまざまな問題を発表討議され、大きな問題がクローズ・アップされた各国代表の発表していることは、こと二十年来少年の体位向上はめざましい。しかし、本当に体位が向上したかどうかは疑わしい。背はかりヒョロヒョロと伸びて、知能と基礎体力が伴わない。顕著なのは、女子の場合で生理的に早く大人になつてしまう。少年期が短かくなつて来たこの現象に対して体育カリキュラムは一向に改まつていない。という事である。そこで、来年の国際スポーツ会議でも引続いてこの問題について討議する事を約束して散会したというが日本の小中学校の教育カリキュラムの中で一番おくれているのが、体育だということである。

又日本の水連の幹部が、オリンピックの不成績の原因の一つに、小中学校の県外対抗を禁止している文部省の次官通達にあるといつたが、県外対抗だけで解決される問題ではないと考えられる。

何れにしても特に日本に課せられた今後の問題は、重大であり問題解決というか、この疑問に答えるべき根本的な検討、調査研究が切望されることはいうまでもない

このごろわが緑ケ丘中学でプール新設の声が高まつて、その趣旨構想について地区部落の懇談会が進められているが、時も時目のあたりに見せつけられた東京大会の実況に誰しもが深い感銘をそれぞれの感覚で思い思いに感受されたことであろう。

部落の組合などの話し合いの中には、どうせ作るならこの際金はかかつても将来に備えて五十米の公認プールを、と力説される人もあると、聞いている。大変貴重な意見であると思われるが、工事に伴なう負担金の問題を、この理想案にどう結びつけていくか、こうした意見もとことんまでつきつめて研究が進められた上での決定をみたいものである。

かつて過去においても農村に素敵もない広い道路があけられた。そんな広い道路をどうする。尊い田地をつぶしてまでとおそらく非難の声は高かつたであろうに、そうしてしばらくは、道の両側に雑草が生い茂るほどであつたのが、今その道が交通量の激増でむしろ狭隘さを感じている。プールと道路とでは自ら異なつた面もあり同じには語れないであろうが、一面又将来を思う時、何か考えの基に共通した節も感ぜられないでもない

それもこれも今の世の中では、多数の人達の理解と協力が先決である。ほんとうに理解してもらえるまでの努力を惜しまない事だと思う。

ついこの間の市民運動会の際も分館対抗の種目がいくつかあつて各分館ともそれぞれ選手をお願いしてとび廻つたものだつた。まことに気持のよい返事でさつそく選手を引受けて下さつた方、又仲々に協力してもらえなかつた方、色色と体育部員は文字通り苦心さんたんというところだつたが、ここにも一方的な解釈は許されないがお互に話し合つて実情を理解されるまでの途が、どこかで狭少になつていなかつたかなどと考えさせられる節もあつた。

昨年競技開始後選手の都合で新らしく他に選手をというので家に居ることを確めた部員がオートバイでお願いに行つたら、ちようど日本シリーズの決勝戦かで、このテレビが終るまで駄目だ、ということでむなしく帰つてきたという話を聞いた。今の世の中は昔とずい分ちがつている事は誰しもうなづく所だが、彼は彼、我は我とはかりいかぬ場合が地域市民社会の生活には沢山ある事だので、ことらをもつとお互に話し合つて行きたいものである。